

展 望

IGS 日本支部での思い出

前田工織(株) 伊藤 雅夫

私が IGS 日本支部と関わりを持つようになったのは、IGS 日本支部が設立されて間もない 1985 年になります。当時勤務していた前田建設工業(株)の前田又兵衛社長が福岡先生と懇意であった関係で、コーポレートメンバーに入会しました。その後、個人会員にも入会し、しばらくは幹事として、その後 2002 年から 2006 年までは幹事長、2007 年から 2020 年までは会計幹事(財務委員会委員長)を務めさせていただきました。早いもので、IGS 日本支部に入会して 30 数年経って、20 数名の幹事の中では最長老になってしまいました。この度、前田工織を 3 月末で退職することもあり、幹事を退任することになりました。

前田建設では地盤関係が専門でしたので、ジオシンセティックスに関する工事や研究にも携わり、また、前田建設退職後は前田工織に再就職した関係で、IGS 日本支部とは切っても切れない関係になりました。

今まで多くのジオシンセティックスを使用した現場に携わってきた関係で、その成果を IGS 日本支部、地盤工学会、土木学会等に多数発表できました。中でも、福岡先生にご指導いただいた長野県豊科造成地の補強盛土の論文を 1994 年の IGS シンガポール国際会議に、太田先生にご指導いただいた能登空港の排水材を用いた高盛土の論文を 2002 年の IGS ニース国際会議に、龍岡先生にご指導いただいた静岡空港の補強材を用いた高盛土の論文を 2010 年の IGS ブラジル国際会議に発表出来たことは非常にうれしく思っております。

今までで、一番印象に残ったのは 2006 年 9 月に横浜で開催された第 8 回 IGS 国際会議です。私は、実行委員会の広報部会主査を仰せつかって、技術展示の勧誘、助成金・基金の獲得、スポンサー広告獲得などを担当し、実行委員会の皆さま方の協力を得て予想をはるかに上回る結果を得ることが出来ました。運営もスムーズに行き、収支も大幅な黒字決算となって成功裏に終了し、打ち上げでは実行委員の皆さんと乾杯したことは今でも思い出されます。

会議終了後のフットボール親善交流試合では、当時の Cazzuffi 会長が 3 人の小さなお子様連れで参加されていました。私事になりますが、娘が当時勤めていた会社のサッカー同好会に所属していた関係で試合に参加することになりました。サッカー会場で、娘と一緒に Cazzuffi 会長の小さなお子様たちの遊び相手をしている間に、すっかり Cazzuffi 一家と親密になり、それ以来毎年クリスマスメールのやり取りをしています。昨年のクリスマスメールでは、すっかり大人になった 3 人のお子さんにご夫妻の写真を送っていただきましたが、お子さん達は、14 歳、16 歳、20 歳になられたとのことでビックリしました。

ジオシンセティックスは、豪雨や台風などの防災工事に数多く使用されており、また、補強土は地震に強いことが阪神淡路大震災以降多くの地震災害現場で証明されており、社会に大いに貢献しております。ジオシンセティックスは成熟期を迎えたと言われておりますが、今後は、新しい材料開発、新工法開発、新分野での適用等が必要かと思われれます。

IGS 日本支部の会員には、大学・官公庁・コンサル・ゼネコン・材料メーカー等の豊富な人材

が集まっておりますので、さらなる IGS 日本支部発展のために桑野支部長以下幹事の皆様方よろしく願いたします。